

地域にはばたく市民パワ－！



ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2020 年 1 月号 (第 134 号)

発行責任者 佐藤 重松



並木 啓子氏／作 木目込み人形『子』

仲山 富夫氏／撮影



年の初めのご挨拶

副会長 大木 美和子

明けましておめでとうございます。

令和となって初めてのお正月を迎えました。気持ちも新たにスタートを切りましょう！

昨年を振り返ってみますと、国内外の情勢や自然環境等、今私たちを取り巻くあらゆる面に於いて大きな変化の波が押し寄せていることは誰もが感じていることと思います。そうした日常にあっても、憂えず、ぶれることなく学び続けていくことはとても大切な事ではないでしょうか。

倶楽部には個性豊かな 14 のサークルがあり、又、文芸講座や時局講演会等、年間行事を通して学ぶ機会がたくさん用意されています。今期の活動方針として、そうした行事については実行委員会参加方式とし、会員の協働を推進していくことになりました。同じ目標を持つ仲間と、つくり手としての苦労や喜びを共有する。そうした交流、

学びで得た感動を積み重ねていくことは人生を前向きに歩んで行く礎となるでしょう。

又、以前から引き続き今期の目標に掲げられている、その一つ「身近な地域に交流の場、サロンを立ち上げよう！」というものがあります。昨年開催した倶楽部まつりに協賛して下さった店主様から場所の提供の申し出があり、すでに 2 回、盛況のうちに開催されました。

今年も目標をしっかりと見据えつつ、日々の生活の中に楽しいことをたくさん見つけて心豊かに過ごせますことを心より願っています。

「新春の集い」

日時：2020年 1月27日（月）

受付 12:30 開演 13:00 終演 15:30

会場：彩翔亭 航空公園内 TEL04-2991-4310

演 目

1部 謡曲・仕舞 竹内好夫 観世流謡曲名誉師範
*「放下僧・小歌」 *「老松」

2部 新春 落語 2題
「金明竹」 きさらぎ亭きさら師匠（富岡落語研究会）
「幽霊そば」 水々亭めだか師匠（富岡落語研究会）

懇親会

3部 新会員歓迎懇親会（お菓子・お茶付き）
新会員紹介、サークル紹介等楽しくご歓談ください
（既会員はお菓子代 600 円頂きます）

孫と落語

水々亭めだか師匠



孫は小学校3年生。大きくなったら「落語家」にしようかと思いましたが、親は大反対！当然ですね。

私が落語の練習をしていると、興味本位でマネはしますが、それだけの現状でした。し

かし、先日私の落語を孫が聴いていると、そこは違うよと指摘をされてしまったのです。

いや～驚きです。私の囁を何回か聴いて覚えちゃったんですね。子供の脳の吸収力には感心しました。

そんなことがあり、少しずつですが「こども落語本」を一緒に読んだり、所作などを教えたり、演芸場に行ったりと落語家への道を密かに進めています。夢は、孫「あめん坊」と私「めだか」の共演です。

（何時かお孫さんとの競演を期待しております）

能楽への招待

竹内 好夫(観世流謡曲名誉師範)



一昨年・昨年と能楽に関する講演の機会を与えていただき、お集りの皆さんの古典作品や能楽への関心の高さを実感しました。

今回はその実践版として、謡曲と仕舞を二曲披露させていただきます。能『放下僧

（ほうかぞう）』には「小歌」と呼ばれる室町時代の俗謡が物語の一部として使われています。『閑吟集』（かんぎんしゅう）にも所収の一節で、京都の春の名所が描かれていて当時の民衆の息遣いが感じられる作品です。歌だけではなく、当時の舞いの実際も楽しんでいただけたと思います。

もう一曲は、新年を寿ぐ能『老松（おいまつ）』の

キリ（曲の終末部）をご紹介します。この曲は「長寿」を授ける老松の神を主題とする世阿弥作の能で、菅原道真遺愛の梅が太宰府に飛来したという説話を下地にした祝言曲です。新春にふさわしいめでたい曲で、かつ平易な謡（うたい）ですので、皆さんにもその一部と一緒に謡っていただこうと思っています。

私は二十代で謡曲の稽古を始め、気が付くと稽古歴は四十年を超え、仕舞の稽古にも励んできたことから、今皆さんの古典作品や能楽への理解のお役に立てることを嬉しく思っております。とかく敷居が高いと言われる能楽の世界ですが、古文芸としての位置づけだけでなく、禅や茶道、華道、枯山水、水墨画等の中世文化を同根とする能楽の価値を多くの人に知って頂きたいと思っています。

新会員の声

日日是好日を求めて

葵の会・楽悠クラブ・アジア研究会・野老澤歴史をたのしむ会 中村 静子



第26期生として市民大学に2年
余り通い、令和元年の秋に無事に
修了証書を頂くことが出来ました。
市民大学の有意義で張りのある時
間はあっという間に過ぎてしまい、

いざ修了となると一種の喪失感を味わいました。

しかし、修了式の後に市民大学OB会「ところざわ倶楽部」の紹介会場に赴いてみますと、色々なサークル活動がエネルギーに案内されていて、その多種多様な内容はそれぞれに興味深く、もし時間が許すならば全部入りたいと思えるほどでした。

結局この日は、それまで準会員の的に入会させて頂いて
いた「アジア研究会」と「野老澤の歴史をたのしむ会」
に正会員として入会させて頂くとともに、新たに「楽悠

クラブ」と「葵の会」にも入会届を提出しました。学校の部活に入部するようなわくわくした気持ちも生まれ、市民大学修了の喪失感は一気に吹き飛びました。

これまで数回ずつですが、「アジア研究会」と「野老澤の歴史をたのしむ会」に参加させて頂きましたが、色々な分野でご活躍されてきた会員の方々のお話は、私にとって大変新鮮に感じられました。又、第二の人生を謳歌されていていらっしゃる皆様の、好奇心旺盛な活動の模様や、ひたむきな姿勢に大いに刺激を受けました。会員の方々の交流の時間や、活動内容は私にとってとても魅力溢れるものです。今後は会員の方々と一日も早く打ち解けて、楽しく実りある時間を共有できることを大いに期待しています。

今、所沢市民大学を終えて…

楽悠クラブ・傍聴席 菊池 一栄



今から約4年前、人生の大半を
注ぎ込んだ勤めが一段落し、そこ
から再び自分探しが始まりました。
悩みを抱えながらも一所懸命に打
込んだ青春時代、そしてその後に
訪れる人生への取組み、比重は違

っても岐路にあることに違いはありません。取敢えず市役所へ行き、地域活動や各種サークルの様子などを聴き、結果として所沢市民大学に入学することが出来ました。それから受講生・企画委員と約4年の歳月が経ち、時の早さに驚きながらもこの間に得た知識や教訓は大きな栄養源として必ず役立つと確信するもので、改めて感謝の気持ちで一杯です。ただ、ここで立ち止まるわけにはいきません…。新たな自分探しにと、幸い市民大学OBの

方々で運営されている「ところざわ倶楽部」に、この度加入させて頂く事になりました。その要因としてあるのはサークル活動で、新たなライフワークが見つかるのでは、と胸膨らませています。

選んだのは‘傍聴席’と‘楽悠クラブ’の2つ、会への参加はどちらもまだ数回のため、内容を捉える所までには至っていませんが、両サークルとも皆さんの熱心な取組みがひしひしと伝わってきます。傍聴席には、専攻が地方自治（企画委員時）だったことから研究テーマを追いかけて、また楽悠クラブには趣味の楽器演奏（ギター他）などを通して音楽のジャンルに触れていきたい、こうした思いの先にあることが選んだ理由の一つです。今後ともお見知りおきのほど、どうぞよろしく。

特別会員寄稿

初春の行事など

市民大学日本の芸能 担当講師
松本 雍

みなさんは、「年越しそば」をいつ召し上がりますか？ テレビのニュースでは大晦日の昼から名題そば屋さんの盛況ぶりが伝えられますが、我が家ではテレビの「ゆく年くる年」を見ながら食べるのが習わしなので、「あれッ昼に食べてもよいの？」と不思議に思っていました。大人になって調べてみると、いつ食べても良いらしく、地域によっては元日や小正月に食べるところもあるそうです。また、妻の家では、大晦日の夕飯（スキ焼きが多かったそうです）にできたばかりのお節料理を添えるのが通例で、それを「お年取り」と呼んでいました。我が家でも子供へのお年玉を添えて踏襲していました。また初詣も、除夜の鐘を聴きながら山門が開くのを待つ人もありますが、我が家のように御屠蘇を済ませてからゆっくり出かける人も多くいらっしゃるようです。

このように地域や家々によってさまざまな新年の迎え方や行事があるようですが、能の世界でも新春の特別行事があります。普段は出ない＜翁＞という曲を演じるのです。「翁は能であって能でない」と言われるように、能が生まれる以前から演じられていた古い芸能で、とくにストーリーもなく、「天下泰平、国土安穩、今日のご祈禱なり」という詞章があるように祈りの曲です。現在では一年の初めの演奏会などでしか演じられませんが、江戸時代は必ず一日の最初に演じられたもので、役者は精進潔斎して舞台に臨んでいました。現在でも流儀によって翁の出演者は別火をするなど、大切に扱っています。また、＜翁＞に限って小鼓は三人になるほか、大鼓は三番叟になってから参加する（太鼓は加わりません）など、常の能とは異なる点が多々あります。ご覧になる機会も少ないので少し説明したいと思います。

＜翁＞は全体が大きく三部に分かれます。幕が上がると、翁面と鈴などを収めた面箱を捧げ持つ若者を先

頭に、翁役者、三番叟役者、囃子役者、地謡役者と全員が行列を作って登場します。祭の庭に役者たちが入ってくる形で、翁役者は舞台正面先で膝をついて深々と一礼しますが、これは祭の庭に勧請した神様への礼なのです。小鼓が打ち出すと、翁役が「どうどうたりたりら」という擬音的な呪歌を謡いだし、地謡が続きます。ここまでが第一段で、全体の総序というべき部分です。第二段は白き翁の祝福という部分で、まず「千歳」と呼ばれる若者が颯爽と舞を舞います。千歳とは千年を経たという意味で、永遠の若さを保った者が勢いよく舞い、力強く足拍子を踏んで邪気を払い、舞台を清めるのです。この間に翁役者は白式尉の面をつけ、先ほどの「天下泰平」という祝言を述べ、静かに舞いだし、舞台の三か所（流派によっては二か所）で「天地人の拍子」と呼ばれる足拍子を踏みます。終わると翁役者は翁面を面箱に戻し、千歳とともに幕に入ります。第三段は黒き翁の祝福です。大鼓の激しい連打にのって三番叟が登場し、力強く足拍子を踏みながら舞台を回る「揉の段」になります。これは第二段の千歳舞をまねたもので、終わり近くには「えい、えい、えい」と声をかけて飛び上がる「鳥飛び」と呼ばれる所作もあります。そして、黒式尉の面をかけ鈴を振りながら舞台を回る「鈴の段」になりますが、これは翁舞をまねたものです。「揉の段は種まきを、鈴の段は稲刈りを表す」といった説明もありますが、厳粛と滑稽、陰と陽など相対する概念を融合するところに、平和を願う＜翁＞の意味があるように思います。

このように＜翁＞では足拍子を踏むことが大切な要素になっていますが、それについて思い出されるのが山形県黒川能の「大地踏み」です。黒川能は櫛引町の人々が江戸時代から守り続けてきた芸能ですが、その初めに幼い子供が刀を担げて足拍子を踏みながら舞台を一巡するのです。これは千歳舞と同じく邪気を払い舞台を清めることを、より端的に示していると思います。雪深い里で夜を徹して演じられる黒川能は魅力にあふれており、一度ぜひご覧になることをお勧めします。

「戦争と平和！」
第 18 回**「戦争は人間のしわざです」**

玉上 佳彦

はじめに

38 年前に日本人に訴えかけた言葉「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」を知っていますか。恥ずかしながら、私は今年の 11 月まで知りませんでした。これは、1981 年に来日したローマ教皇ヨハネ・パウロ 2 世の広島での平和アピールの一文です。昨年 11 月に来日したフランシスコ教皇は、広



島・長崎の被爆地を訪問し、戦争を否定し、平和を希求し、「原発をやめるべき」と核廃絶を強く訴えました。残念ながら、唯一の被爆国である日本は、核兵器禁止条約に反対し、「核保有国や

非保有国を含む国際社会における橋渡し役を果たし、現実的かつ実践的な取組を粘り強く進めていく」という全くわけのわからない主張をしています。

現実の世界は

現実の世界は核兵器の増強を含めた軍拡がますます進んでいます。昨年 2 月にアメリカは中距離核戦力全廃条約 (INF) の破棄をロシアに通告し、失効しました。かつての冷戦 (アメリカ vs ソ連) とは異なる米・中・ロの新冷戦が顕在化し、核の脅威、米中貿易摩擦や AI、サイバー攻撃、宇宙進出などと地球規模を超えた新技術などで、深刻な対立を引き起こしかねない現実が生まれつつあります。

我々が「戦争」という言葉で思い浮かべるのは、かつての「第 2 次世界大戦」ですが、遠い過去の話として、悲惨な場面を忘れていてのではないのでしょうか。「今の世界は平和」と誤解して、平和ボケに浸っている日本人は、世界各地の厳しい戦争 (内戦) のことを知らないのではないのでしょうか。

世界の内戦・紛争

世界各地では、隣国や異民族、異宗教などに起因する戦争や内紛が続いています。我々日本人にとっては、遠い世界の話として、認識していない人が多いと思いますが、世界の戦争 (内紛) は中近東やアフリカを中心に多発しています。

今でも、戦争・内戦・紛争が続いている国・地域としては、以下のようなものが挙げられます。
イスラエルーパレスチナ、シリア、アフガニスタン、ト

ルコークルド、ソマリア、ナイジェリア、ダルフル (スーダン)、イエメンーサウジ、リビア、カシミール。ミャンマー (ロヒンギヤ)、新疆ウイグル自治区など。

これをけしかけているテロ組織として、イスラム国、アル・カイダ、ボコ・ハラム、ヒズボラ、タリバンなどが暗躍している世界があります。

世界中の内戦・紛争の原因は、宗教対立、領土紛争など様々な原因があるようですが、これらの国々の内戦・紛争をけしかけるべく、各組織に積極的に武器・弾薬を販売・供与している大国 (=武器商人) の存在を見逃すことができません。

アフガニスタンの中村哲医師

私と同年齢の中村哲医師 (73 才) がアフガニスタンで銃撃されて死亡するという悲劇が起きました。米ロの大国に振り回されてきたアフガニスタンで、平和を希求する人々に全身全霊で

尽くしてきた中村医師に心から敬意を払いたいと思います。どの組織による襲撃かわかりませんが、現地の人々のために貢献している日本人の地道な活動を阻害するテロ組織が存在していることは見逃すわけにはいきません。

日本は平和か？

我々日本人には理解できない一神教世界の宗教間対立、地域紛争による憎み合いは国内では考えにくいことです。島国であるという地政学的なメリットのもとで、一見安定しているように見える国内の政治情勢は、長期政権による綻び、歪みが出て、不都合な暴走を止められなくなっている今の日本は、決して平和とは言えないと思います。経済力の低下、技術力の低迷、人口減少、教育レベルの低下、後ろ向きの地球温暖化対策、原発問題など深刻な状況があるにも関わらず、将来を示せない政権に、平和を語り、希求することは難しいと言わざるを得ません。

(写真はインターネットから入手)

サークル活動報告

11 月行事 石坂産業見学会

脳活サークル
平野 公子

脳活サークル 11 月の定例会は、サークル目的のテクテク、ニコニコ、カミカミ、ドキドキを実践すべく 11 月 23 日に開催された石坂産業見学会に 10 名で参加。一般参加者と共にくぬぎの森交流プラザ受付で参加費



を納め、フリーパスワッペンとミニ SL 搭乗券（当日は雨天運休）を受け取りワクワクしながら施設内へ。

創業 50 年で建設系混合廃棄物をリサイクル技術で、減量化リサイクル化率 98% を達成し、2067 年を目途にした地中施設計画等々の会社説明を受け、工場見学に。作業所内は、集塵設備が整っていて作業員にも優しい環境。見学コースのメッセージボードに「お父さんかっこいい」と従業員のお子さんのメッセージに夢と誇りのある会社と感じました。工場を出ると緑豊かな里山環境教育フィールド。東京ドーム 4 個分の三富の里山を森林インストラクターの案内で散策。傘をさしながらの散策も皆それぞれ新しい発見がありお天気の良

い日にまた来たいと話しながら、見学コース最後の石坂ファーム固有種野菜を中心にした「大人の給食」を美味しくいただきました。石坂産業の 100 年先を見学した「人と自然と技術の共生」、サーキュラー・エコノミー持続可能な社会に取り組む企業として、これからも作る製造責任・使う使用責任・捨てる廃棄責任を考えていくというお話を聞き、物を買わないという選択肢ではなく、買った物をいかに活かし使い切り処分するかを見届ける責任を感じました。雨の一日、ゆっくりテクテクと行きませんでした。三富今昔語りべ館で懐かしい玩具に触れ、子供の頃の思い出話にニコニコ（爆笑）しながら、22 種雑穀米のカミカミを思い起こし、水琴窟に耳を澄まし新たな発見にドキドキ、そして仲間の思いやりのあるやさしさに感謝する一日になりました。



フードバンク活動のご紹介

食を通して所沢を知る会
黒田 和代

「食を通して所沢を知る会」略して「食トコ」のメンバーの黒田です。私は、所沢を拠点とするフードバンク「フードバンクネット西埼玉」の活動にも参加しており、「食トコ」にもフードバンク活動にご協力いただいています。

フードバンクとは「安全に食べられるのに破棄対象とされる食料の寄付を集めて、食料を必要としている人や場所に無償で提供する」という活動です。ゴミや CO2 など環境やエネルギーの問題と福祉的な問題など



複数の分野にまたがる活動であることが特徴です。

写真のように、ところざわ倶楽部の総会やイベントでもフードドライブ（食料の寄付集め）を実施していますが、毎月第 3 月曜日には水道局（宮本町 2 丁目 21-4）、偶数月の最終土曜日には西武所沢 SC（旧西武所沢ワルツ）で、その他市内 7 か所で食料の寄付を集めています。活動の拠点となる常設の食料保管倉庫が狭山ヶ丘にあり、企業等からの寄贈品は直接倉庫に送られてきています。

集まった食料は、所沢市を含む近隣 10 市の社会福祉協議会や行政窓口、子ども食堂、さまざまな福祉施設などを通じ、食料を必要とする人や場所に提供しています。

フードバンク活動を詳しく知りたいという方は、お気軽にお問合せください。お手伝いも常時募集しています。

ホームページ <https://www.fbn-nishi-saitama.com/>

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (水上 俊彦 080-6855-5868)

2月14日(金) 13:30～15:30 中央公民館6号室
及川先生講義「古事記」(4月まで) 15:40～16:40 例会

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

1月29日(水) 13:30～ 中央公民館8,9号室 定例会
小野塚勝俊氏による所沢通信基地土砂搬入問題と
日米地位協定などに関する報告会
2月19日(水) 13:30～ 中央公民館8,9号室 定例会
テーマ未定

3. 活いきシニア福祉の会 (川上 紀春 090-5573-2548)

1月22日(水) 13:00～15:00 生涯学習推進センター 102号
「後期高齢者医療制度」学習と意見交換
2月26日(水) 13:00～15:00 生涯学習推進センター 101号

4. 楽悠クラブ (田村 健一郎 事前連絡は不要です)

1月14日(火) 「イル・ディーヴォ ライブ・イン・ジャパン 2018」
2月10日(月) レオン・カヴァルロ 歌劇「道化師」
楽しい音楽を一緒に!!!
いずれも 13:15～ 中央公民館 3階8・9号学習室

5. 食を通して所沢を知る会 (木下 みえこ 090-7272-6752)

1月21日(火) 10:00～12:00 定例会 ふらっと(研修室)
新年会(朗読劇も予定されています)
2月18日(火) 東村山ポールスター
(黒焼きそばソース工場見学) 時間などは未定

6. 地球環境に学ぶ (中島 峯生 2928-1161)

1月21日(火) 9:00～11:00 新所沢東公民館 研修室
定例会: ①討論会「SDGsに就いて」 ②見学会の検討
③持寄り学習 ④DVD「モルゲン・明日」各自鑑賞中
2月18日(火) 9:00～11:00 新所沢東公民館 研修室 定例会

7. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会 (田口 元也 090-9820-5668)

1月25日(土) 13:00～17:00 中央公民館
SP チアダンス練習 見学大歓迎
2月5日(水) 13:15～15:00 中央公民館 101号学習室
定例会 議題 第3回「市政ひよこ塾」企画検討
2月27(木)、28日(金) 市役所ロビー 市民活動パネル展

8. 所沢の自然と農業 (稲村 洋二 2992-1751)

1月18日(土) 10:00 とろろ21号地 保全作業
1月21日(火) と31日(金) 9:30 黄林閣散策路整備
1月23日(木) 11:30 市民大学ファーム総会
1月25日(土) 9:00 伊東園落ち葉掃き
1月29日(水) 山田ファーム総会

9. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大館 徹 2924-3010)

2月6日(木) 9:00～14:50 新設 開運「所沢七福神めぐり」
所沢駅 改札口集合 9:00・八国山・荒幡富士コース 7ヶ寺
所沢駅発～秋津・久米・荒幡・山口の七福神・所沢駅解散
2月20日(木) 13:00～15:15 中央公民館学習室 8,9号室
木村先生の歴史講座と座談会・

10. ドラマティック・カンパニー (高橋 信行 090-9393-6238)

1月11日(土) 10:00～12:00 新所沢公民館 学習室3号
シェイクスピア原作「リチャード3世」朗読
1月25日(土) 10:00～12:00 中央公民館学習室3号
引き続き「リチャード3世」朗読。
2月8日(土) 10:00～12:00 中央公民館学習室3号

11. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

1月28日(火) 10:00～12:30～14:30 西新井町会館
喜劇「男はつらいよ」第16作 ～葛飾立志編～榎山文枝
季節の歳時記 『新年会 兼「まゆ玉飾り」』実施
余興: 漫談・唄ごえ・舞踊・ビンゴゲームなどお楽しみ
⇒次回上映会 2月11日(火) 洋画・ミュージカル

12. 脳活サークル (加曾利 厚雄 2939-2308)

1月20日(月) 12:30 (開演) 池袋演芸場
「落語寄席で笑い・・・脳の活性」する会
所沢駅 改札内 10:10 集合、10:19 発
2月17日(月) 10:00～未来館「ユマニチュードを学ぶ」

13. 傍聴席 (石堂 智士 2947-0835)

1月20日(月) 14:00～16:00 新所沢東公民館
総会と学習会「地域公共交通政策」2回目
1月29日(水) 「土砂搬入の報告会」小野塚勝俊氏
2月17日(月) 「公共施設マネジメント問題」3回目

14. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

1月28日(火) 南小学校
1月29日(水) 上新井小学校 1月30日(木) 牛沼小学校
小学校三年生の「ふるさとを知る」授業で所沢の民話を紹介。
演目: 「弘法の三ッ井戸」「カヤ湯」「絵で見る昔の所沢」
2月予定 所沢小学校 明峰小学校

理事会報告 第13期第1回理事会を12月9日(月)開催

- ・新年度活動方針の再確認を行った。
- 1) 事業計画の実行委員会方式推進 2) サークル間の交流拡大
- 3) 市民大学への提言 多世代交流 4) 高齢者福祉情報共有化
- 5) 地域サロン立ち上げ支援
- ・事業部年間方針 関心の高いテーマの取り上げ 参加型推進
- サークル共催事業支援 小規模シンポジウム開催

- ・当面の行事 1/27(月) 新春の集い 彩翔亭 受付 12:30
- 2/29(土) 中村敦夫朗読劇「線量計が鳴る」共催
- ・広報部年間方針 女性編集委員増強 「戦争と平和」シリーズ
- の仕上げとして8月にシンポジウム開催
- ・総務部 総会報告 11/22 13期定期総会開催 出席 93名
- 総会後講演会 テーマ「海洋マイクロプラスチック問題」
- 身近な問題として関心と呼び、好評であった。出席 110余名

みんなの広場 第19回

所沢シニア世代地域デビュー支援の会
深澤 満

市民大学 27 期の講座に参加して～

昨年 11 月 14 日、安藤聡彦先生(埼玉大学教授：社会教育・環境教育)による「異世代間交流」をテーマとした市民大学 27 期 1 年次の講座が行われた。そこに、私たちチアダンスチーム (SP) メンバーがわき役として、ダンスの指導に当たっている栗原さんと柴田さんが主役・準主役として登壇した。

講座は、安藤先生の趣旨説明の後、栗原さんから、市民大学との出会いから交流を通じて現在に至るまでの経過が話された。その後、柴田さんも加わって、SP との交流についての感想などが語られた。休憩後、DVD により SP の演技を観ていただいた後実演も行い、受講生の皆さんにも体を動かしてもらった。ここから、SP メンバーによるひと言ふた言発言、そして受講生と登壇者とのやり取りという展開で、「異世代間交流」が様々な角度から語られた。

受講生のアンケート結果によると、講座の形態・内容について大変良い反響だったので、新たな学びの場の提供の一助となったのではないかと、ほっとしたところである。

話は変わって、安藤先生指導の 18 期「都市の環境」修了生で始めた、カルチャーパークでのゴミ拾いや林の手入れを柱としたボランティア活動は(学生の頃は栗原さんやその友達も参加)、昨秋で 8 年を経過した。

ところざわ倶楽部の総会後にあった講演会の中では「ゴミ拾いの重要性」が指摘されており、情性に陥りがちであった活動に活力を注入された思いで新たな年を迎えている。

むさし野俳句会(令和元年十二月)作品抄



銀行の休眠口座神無月
開きては母乳の色に花八手
島と島結ぶ一筋冬落暉
狛寅の赤き口までしぐれけり
満蒙に遺せし親族うから枯木星
病窓に一葉貼り付く時雨かな
平凡な日々積み重ね古日記
鴨八羽 V の字描く入間川
席題に猫の一字漱石忌
雪吊の小松や縄の宝珠かな

利根川啓一
中嶋弘子
中村直子
橋本佑子
平栗彰子
宮本信生
荒幡千鶴子
飯泉陽子
井出昇

床屋へと思ひ立つ窓冬の雨
枯芙蓉子規の机で投句書く
逆上がりする子の尻に落葉かな
時雨去り茜に染まる潦
オペ濟みて眩しき窓辺石路の花
メモ用紙の紛失騒ぎ年用意
古民家にピザ屋の旗や冬桜
遠く近く鮪解体囲みけり
歳晩や鞆の底の崩れ菓子

粕谷のぼる
河瀬俊彦
小林貞夫
小林典子
佐藤八郎
白神恵子
高梨千代
高橋三加子
鈴木征子

《編集後記》

鍋や雑煮の薬味、酢の物にと頻りに柚子を使う季節になった。「桃栗三年柿八年、柚子の馬鹿野郎十八年」と言われる通りなかなか生らない。我が家の柚子も長いこと生らず、欲しくて買った妻が「切ろう」と言い出したら切られてはたまらんと実を付け、今年は 13、4 個生った。

孫が 2 歳の頃黄色い実を見付けると、何でも「ミカン、ミカン」と言うので、「あれは柚子だよ」と教えた。今年 5 歳になり、夏遊びに来た時「青い実を付けているよ」と話した。探しに行った孫は、「青い実、無かった」と帰ってきた。

大人は若い葉や実を「青い」と表現するが、5 才は文字通り「青い実」を探し、「ない」。確かに実には緑色であり「青」ではない。「小さな実を付けている」と話せば良かったと反省している。(松崎 記)

川柳(四十九) 作品発表 選 中島峯生

課題「持つ」

おしゃべりも品格を持つおちよぽ口
関白は子どもと荷物妻が持つ
初デート傘を持つ手も揺れ動く
かみさんと持ちつ持たれつ五十年
俺が持つ言った本人いなくなる
いっぱい持つこの世思い出さる日まで

「自由句」

やめられぬ生きてる証年賀状
国連をガツンとしかる十六歳
忘年会自分の年も忘れんぼ
チケットが抽選外れ手を叩く
病気の芽正月くらい寝てくれ
失敗は新しい芽が湧いて来る

りんご好き
縄文人
庵閑子
突拍子
鼻うしろ
ど拍子
鼻うしろ

次回(第 50 回) 課題「営業」そして「自由句」

締切り日：1 月 20 日、担当中島まで、どなたでも

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp Fax04-2928-1161

「広場」問合せ 玉上 佳彦 (090-2497-1076)